

どぶろく祭り

四百年ほど前のことです。

長草村ながくさにはやり病が出ました。多くの人が激しい腹痛はらいたになやまされました。なかには、それがもとで命をおとってしまう人もありました。村の人たちは、

「これは、何かのたたりじゃあ。」

「何か悪いことをしたもんが、いるんじゃないやあか。」

などと、うわさをするようになりました。やがて、

「天神てんじんさんのたたりだ。」

「天神さんにどぶろくそなを供えんのがいかなのだ。」

「前には、お祭りにどぶろくを上げとったげなぞ。」

「村のもんがなまけとるもんで、神さんがおこらしたんだわ。」

「そうだ、そうだ。天神さんのばちが当たったんだがや。」

といった話が、ささやかれるようになりました。

そのむかし、この土地を開いた地頭じとうの藤原民部ふじわらみんぶがこの村の守り神として天神社を

村役人

建てたました。そのとき、田一反歩いったんぶを神田しんでんとして奉納ほうのうし、お祭りにそこから取れた米

でどぶろくをつくり神前に供えました。

このお祭りは、その後も長く続けられたようですが、いつのころからか行われな

くなつてしまいました。神田も荒れるにまかさね、長い草におおわれていました。だれいうとなく、そこを「長草」と呼ぶようになりましたが、やがてそれが、村の名前になつてしまいました。

村の寄り合よいで、はやり病のことが話題になりました。

「このままでは村中全滅だ。何とかならんもんかなあ。」

「やっぱり、天神さんのせいかもしれんな。」

「どぶろくをお供えしなくちやあ。」

ということと、天神さんのお祭りにどぶろくを奉納することに話がまとまりました。そこで村の取り決めとして、

定

一、どぶろく造りの米は、神田で取れた米と氏子が納める初穂米をあてること

一、造り方は、むかしからのしきたりを守る。このことは村人のほかには、だれにももらさないこと

一、どぶろく造りをする人は、七日間家族と別れて暮らし、体を清めること

一、お祭りは、どんなに米の不作の時でも中止しないで、毎年続けること
などを、かたく約束やくそくし合いました。

さつそく、総代そうだいさんの家を蔵元くらもととして、元入れ、初かけ、中かけ、とめかけとい
酒さけづくりをする家

う作業が行われました。当番の人が昼夜交代で手入れを続けて、三十五日がたちま

した。

「できたぞ、できたぞ。」

「うまくできたな。これなら立派などぶろくだわ。」

「苦勞のかがあつたというもんだ。」

「これも、みんなが代わり番こに、休まずに世話をしたおかげだわ。」

と、村の人たちは蔵元に集まって肩をたたき合っています。かた

二月二十五日のお祭りの日、どぶろくが神前に供えられ、お参りの人達にもふるまわれました。

「天神さんも、お喜びのことだろう。」

「村の衆しゆうもみんないい顔しとらっせるぞ。」

「きつと、これからはええことがあるにちがいにやあ。」

どぶろくをよばれてごきげんな人達が、そんな話をしています。

ごちそうになって

長草村では、どぶろく祭りを続けるようになって、はやり病はなくなったそうです。

長草地区に伝わる天神社のお祭りにかかわるお話です。

この祭りは「どぶろく祭り」と呼ばれ、今でも毎年2月に行われています。